

### 3 奄美語の SDGs－生物文化多様性のために

#### 〈Background 背景〉

奄美のユニークな生物多様性を守るためには、言語多様性を守ることが重要である。というのも、生物多様性と言語多様性は、別個の領域のものでは決してなく、相互に補強しあい支え合う共生発展関係にあるためである。最近では、両者を一体的に保全しようとする「生物文化多様性」（‘biocultural diversity’）という概念が生まれ、生物多様性の保護計画に言語多様性維持を目標として取り入れる必要が唱えられている。

人間にとって、言語とは、心の糧であり、アイデンティティの拠り所である。奄美語には奄美の人々の世界の見方や知識、慣習、伝統、信念…等がつまっている。「奄美語」と一括りにできないほど多種多様な奄美語の姿は、奄美の豊かな生態系の合わせ鏡でもあり、人と自然が互いに活かされつながりあい共存していく知恵にあふれている。

しかしながら、現在、奄美語は、世代間伝達がうまくいかず、ユネスコも警告を出す消滅危機言語となっている。人々が奄美語を母語として話す未来は訪れないかもしれない。だが、地元の言語として奄美語には、共同体の団結力と活力を増進させ、文化に対する自尊心を育て、共同体と人々に自信を与える力が秘められている。多様性を強調した観光業や芸術、地場の製造業などでは、地元の言語が大きく貢献しうるだろう。このまま奄美語の消滅を待つのではなく、貴重な奄美語の遺産を今後の奄美の発展のために活かす道を模索することが何としても必要である。

#### 〈技術〉

- ①多様な奄美語の世界を「データベース」（文字・音声・映像データ等）として残す。集落毎に異なる語彙や豊かな変種を各地の高齢者に聞き取り記録に留めるのは、今が最後の機会である。また、島唄、民話、神話、伝説等、種々の言語文化に関しても、失われてしまわないうちに早急に収集していくことが重要である。
- ②「データベース」をウェブ上で公開する。収集データを、過去の遺物として博物館で保存管理するのではなく、奄美語が新たな「生」を得られるようサイバースペースを活用する。ウェブ上で意見・情報交換を活性化させ、データのさらなる充実および奄美語の普及・PRを図っていく。
- ③「データベース」を既存・進行中の言語研究の知見とリンクさせ、奄美語の言語体系を「辞書」や「文法書」としてまとめる。将来的に奄美語を復元・学習可能な状態で後世に引き継ぐためである。
- ④「データベース」を土台とし、奄美の生物文化多様性を活かした新たな現代文化の創出を促す。700以上の多種多様な疑似生物がキャラクターとして登場する『ポケットモンスター』（『ポケモン』）のようなアニメ・ゲームは、奄美の生物文化多様性の未来に光を投げかける現代文化の事例である。「ケンムン」（妖精、妖怪、自然の守護者）も出没するというユニークな奄美の生物文化多様性を活かした現代文化を世界に発信し、奄美ファンを増やし、多様な人材を外から奄美へ呼び寄せることができればしめたものである。

新井典子（拓殖大学教授/英米文学・比較文化）